新潟などで拉致映画「連れ去られてから」撮影

オランダ人女性監督が抱負

「家族の感情伝えたい」

北朝鮮による横田めぐみさん（当時13歳）の拉致事件を扱ったドキュメンタリー映画「連れ去られてから」の撮影が新潟市などで行われている。監督を務めるオランダ人女性、ミリアム・ファン・フェイレンさん(46)が4日、取材に応じ、「残された家族の孤独感や悲しみといった感情を伝えられる作品にしたい」と抱負を語った。

ミリアムさんは02年9月、小泉純一郎前首相の訪朝のニュースで拉致問題を知り、「こんな悲しいストーリーがあるのか」と映画化を決心。2年前に素材探しのために来日し、資金集めのめどがついた先月から本格的な撮影を続けている。

ミリアムさんは関係者のインタビューのほか、めぐみさん役の子役を使って新潟市の角田浜や新潟小学校で拉致の再現シーンも撮影した。「単なるドキュメンタリーではなく、詩的な映像も入れて人間の気持ちを表現する物語」にするという。

ミリアムさんは「大人になりかけた時に拉致されたためぐみさんの心の痛み、両親の心の痛みに胸を打たれた」と語り、「めぐみさんの家族をいろいろな人が助け、そのエネルギーが救出の可能性を生んでいる。強く信じれば、願いは叶うことを伝えたい」と話した。

撮影は18日まで同市や東京都内などで行われ、来年夏に完成予定。欧州や日本での公開を目指している。【前谷宏】

撮影後に「救う会新潟」の馬場吉衛会長（右）と話すミリアム・ファン・フェイレン監督＝新潟市中山で